

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

女子準々決勝

京都府選抜 12

5	—	3
1	—	1
3	—	3
3	—	1

8 石川県選抜

審判： 御崎 智徳
荻野 浩明

京都府選抜	20	SH数	28	石川県選抜
	2	速攻数	2	
	7	ST・SB	12	
	13	SH・P誘発アシスト	4	
	38%	GK阻止率	25%	
11	EX反則数	3		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

夏のJO中学区分では、双方の主力の一部が準決勝で対戦し、その時には京都12-7石川で、勝利した京都が夏のJO優勝を果たした。敗れた石川は3位となっただけに、今回こそはという思いが石川側にある対戦となった。

1P

力のある両チームの対戦だけに、いち早く自分たちのペースで試合ができるかがカギを握っていて、その意味でも序盤の攻防が試合を左右する。夏のJOでは第1ピリオドが京都5-1石川と優位に立ったことで京都に凱歌が上がった。

今回もまた京都が主導権を握った。センターボールを取った京都が石川の守備が強く出てこない間隙を縫って、センターボールを取った城之下がセンター位置であっさり先制点をあげると、矢継ぎ早に石川のパスをカットしての速攻で連続得点。その後も、泳力のある城之下が前に出て連続得点するなど石川を圧倒した京都5-3石川で第1ピリオドを終えた。

2P

一転してこのピリオドは攻防の応酬で長いラリーが続いた。特に石川のディフェンスが効果的に機能し、京都にシュート機会を与えず、また京都側も攻めよりもやや守備的な展開で珍しく速攻を全く仕掛けないピリオドに。お互いにチャンスらしい攻撃は少なく、京都は退水で1点、石川はペナルティで1点だけにとどまった。京都側もペナルティを得たが、ものにはできないなど少しリズムが悪いピリオドとなった。

3P

後半に入って再び京都側が積極的に攻め、城之下や大前で3連続得点し、ここで完全に石川を引き離しにかかった。しかし石川もようやくリズムが出てきて、ピリオド後半には泳いで退水やペナルティを誘発し、3連続得点で一気に挽回の体制にエンジンがかかってきた形となった。3ピリオド終了時点で京都9-7石川と接近して最終ピリオドへ。

4P

このピリオドも双方決め手を欠き、長いラリーとなったが、攻撃面では石川が退水誘発を連発し、シュートを放つも正確性を欠いたのが響いた。中盤にGK中川のセーブから森田がセンターで決めて京都9-8石川と1点差に迫ったものの、最後は力尽いた感じで焦りのミスから決定的な3連続失点し、京都12-8石川で京都が制した。

【プレー分析から】

数字の上ではペナルティ・退水誘発13本の石川が有利と思える試合内容となっているが、退水攻撃時の数的有利状態での決定力不足が響いてしまった結果となった。またボール接点での攻防でも石川の方が数的に勝っているが、京都との大きな差は、シュートへのアシストパス。水球はボール飛行速度が泳いで移動するよりもはるかに速く、効果的なシュートへのパスは相手守備(GK含む)をかわせる武器となる。特に京都の大前のシュートへのアシストパスが有効であった。その反面、シュート数の割には効果的なアシストパスが少なかった石川には(28本シュートのうちアシストパスは4本にとどまった)、シュートがやや難しいタイミングや位置からのものとなったことも勝敗を分けたものと思われる。

第14回 桃太郎カップ水球【戦評】